

校長室だより

共学共高

第
7
号

令和3年7月16日発行

発行責任者

白梅学園高等学校長

武内 彰

白梅清修中高一貫部との高め合い

本校は、高校3年間課程の女子校であるが、同じ敷地内には「白梅清修中高一貫部（女子のみ）」がある。同じ学校法人内にあるが、それぞれの教育活動は独自に行われている。私は、お互いに強みや弱みを自覚し、それぞれ高め合っていく関係を築くことが大切だと考えている。両校長・両副校長共に週1回の定期的な会合を通して、さまざまな情報交換や意見交換などを行っている。

6月23日（水）には両校の全教員が一堂に会し、「対話的な学び」についての合同研修会を実施した。私から「対話的な学び」が求められる背景やその実際・必要性などについて、少しばかりお話をさせていただき、その後は各教科に分かれての意見交換を行った。一般的に言って、高等学校では知識伝達型の授業が行われていることが多い。本校とて決して例外ではない。しかしながら、「生徒間の対話のある授業」を実践し始めてくれる教員が複数出てきてくれている。この校長室だよりでも紹介してきたが、これからも継続していきたいと考えている。

そんな中、清修の研究授業にお邪魔してきた。6年生の英語の授業で、授業者はK先生であった。本校からは私のほかに、K副校長先生と英語科のH先生が参加した。清修からもY校長先生、S副校長先生、その他複数の先生方、さらにはO法人事務局長も参加した。その報告をさせていただく。

授業の冒頭は前時の復習である。CDの音声とオーバーラッピングしながらのリーディングである。生徒たちの声は比較的大きく、実際に声を出すことの意義を理解している様子が見ええる。テーマは、冬季オリンピック種目にもなっている「カーリング」についてである。先生がいくつかの質問を英語で全体に投げかけ、生徒からのフィードバックを得て、内容を理解しているか確認している。

次に、一人一人の生徒にワークシートが配布される。「オリンピックでどの種目を観るのが好きか、その理由は？」という問いかけに対して、各自がマインドマッピングを作成していく。次に、各自で端末を開き、インターネットにつないで、情報収集しながらマインドマッピングを完成させていく。その後、ペアで意見を出し合う。お互いに開かれた関係が構築されており、活発に意見交換が行われる。さらに、シェアし合った意見も取り入れながら、自分の意見を記述していく。再び、ペアになって、自分の意見を英語で表現していく。ボキ

ャブラリがすぐに出てこない時には、ペア相手から助け舟が出される場面もあった。どの生徒も自分の考えを自分の英語で、伝わるように表現している。

最後に、3～4人のグループになり、一人が発表し、他の生徒は発表を聞いたのちに質問する。これを全員について行った。普通はここで授業が終わることが多いのだが、各グループでどのような発表があったのかをクラス全体の前で代表者が紹介するのである。しかも、代表者は自分の発表を紹介するのではなく、他のメンバーの発表内容のエッセンスを英語で紹介するのだ。こうした授業設計をしたK先生も立派だが、ここを難なくこなしている生徒たちも素晴らしい。日頃の御指導がよく表れている場面であった。

授業後の研究協議には都合により参加できなかったが、きっとK先生にとって、良き刺激を得る場面となったものと推測している。

白梅でも清修でもそうであるが、授業に対してオープンで閉鎖的ではないところがよい。先生たちも日々教材研究に忙しい時間を過ごしているが、それが生徒たちのより良い学びへとつながる契機となることを願わずにはいられない。

生徒たちもそうであるが、先生たちも高め合いが大切だ。



(共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す)